

氏名	岡 岳 文
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3423号
学位授与の日付	平成12年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Double-Sector Lorenz Plot Scattering in an R-R Interval Analysis of Patients With Chronic Atrial Fibrillation (慢性心房細動における房室結節二重伝導路の検出—Lorenz Plotによる二重扇形頂点の頻度及び特性—)
論文審査委員	教授 大江 透 教授 菅 弘之 教授 佐野 俊二

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Lorenz Plotは、心房細動において扇形に表現され、扇形の頂点は房室結節の機能的不应期を示すとされている。そこで、慢性心房細動を有する48例を対象に、3時間毎および24時間連続のLorenz Plotを作成し、単扇形および二重扇形の出現頻度とその特性を検討した。単扇形は29例(60.4%)、二重扇形は19例(39.6%)に認められた。

二重扇形には2つの機能的不应期が存在することが推測されるので、二重扇形の解析を試み、以下の結果を得た。

- (1) 慢性心房細動の約40%に認められる二重扇形は房室結節二重伝導路の存在を示唆する。
- (2) 単扇形と二重扇形の機能的不应期を比較すると、二重扇形の方が変動係数が大であった。
- (3) 速、および遅伝導路の機能的不应期はいずれも日内変動を有し、日内変動は前者の方に大であった。

これらの知見からLorenz Plotは心房細動の二重伝導路を比較的簡単に把握しうる方法と考えられた。

### 論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、Lorenz Plot法を用いて慢性心房細動患者の房室結節伝導特性を検討したものであるが、房室結節伝導特性には単扇形と2重扇形の2パターンが存在すること又2重扇形は房室結節の2重伝導路を有する場合に起こることを明らかにした。従来、不明の点が多かった心房細動時の房室伝導特性に関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。